

Golden Star

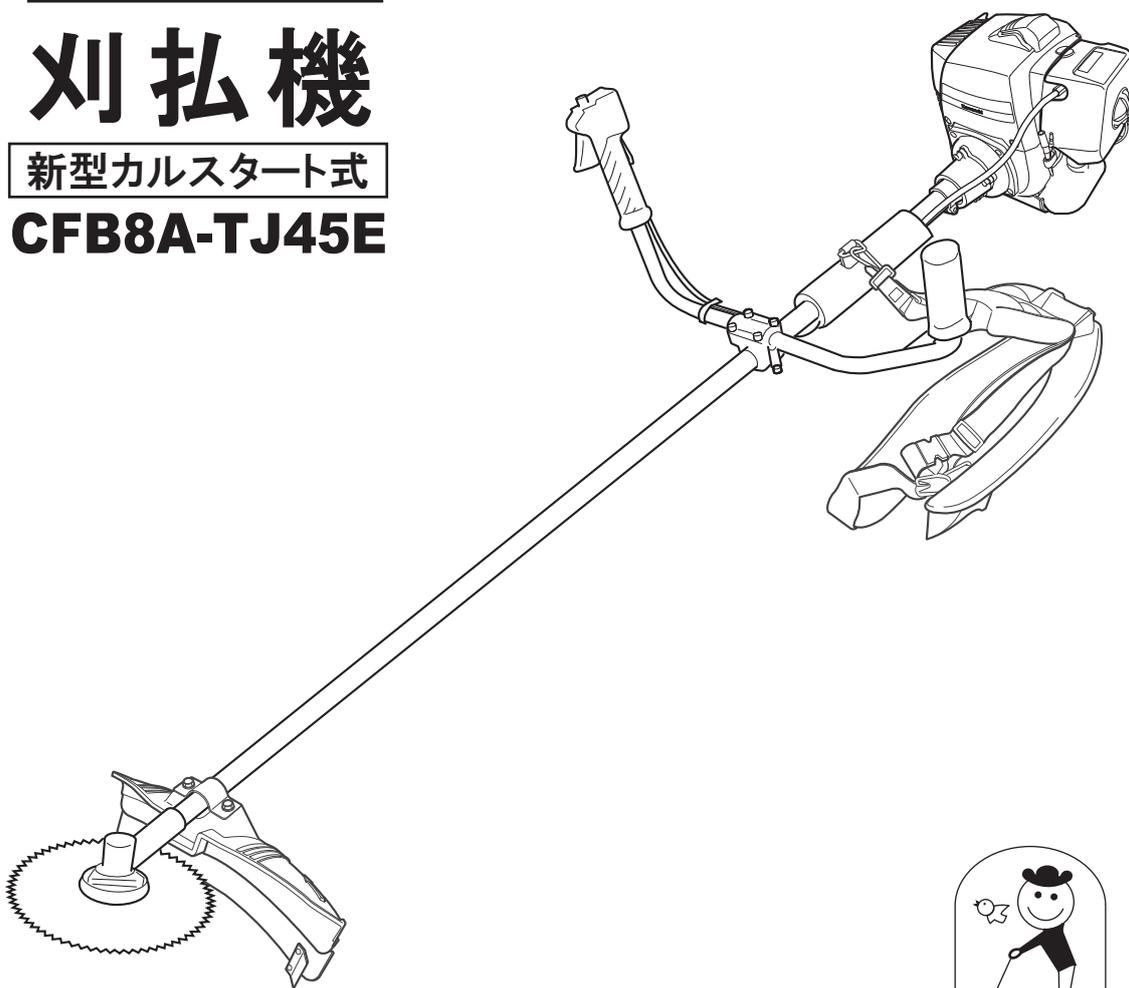
ゴールデンスター刈払機

取扱説明書

ゴールデンスター 刈払機

新型カルスタート式

CFB8A-TJ45E



— お買い上げありがとうございました。 —



警告

- この取扱説明書は、いつでも使用できる所に大切に保管して下さい。
- ご使用前に、まずこの取扱説明書をよく読まれ、本機の機能をご理解の上、正しく安全に使用くださるようお願い致します。

目 次

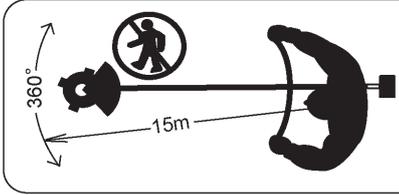
| | |
|------------------------|-------|
| 1. 安全にお使いいただくために | 2~3 |
| 2. 各部の名称／警告ラベル貼付位置 | 4 |
| 3. 仕 様 | 4 |
| 4. 組立て | 5~8 |
| 1) 本体とエンジン組立て | 5 |
| 2) スロットルレバーの取付け | 5 |
| 3) ハンドル取付け | 5~6 |
| 4) ハンガーとショルダーバンドの調整 | 6 |
| 5) セフティーガードの組付け | 7 |
| 6) 刈刃の取付け・取外し | 8 |
| 5. 燃料給油 | 9 |
| 1) 燃料 | 9 |
| 2) 燃料混合 | 9 |
| 3) 燃料給油 | 9 |
| 6. エンジンの始動・停止 | 10~11 |
| 1) エンジンの始動 | 10~11 |
| 2) エンジンの停止 | 11 |
| 7. 作 業 | 12~13 |
| 1) 服 装 | 12 |
| 2) 刈払作業 | 12 |
| 3) 作業時間 | 13 |
| 8. 保守・点検 | 13~15 |
| 1) グリースの給油 | 14 |
| 2) エアークリーナの清掃 | 14 |
| 3) 点火プラグの清掃 | 15 |
| 4) 燃料フィルターの清掃 | 15 |
| 5) 燃料パイプの交換 | 15 |
| 9. ナイロンコードカッターのご使用上の注意 | 16 |
| 1) ナイロンカッターの取付け、取外し | 16 |
| 2) ナイロンコード長さの設定 | 16 |
| 10. 保 管 | 17 |
| 11. 本機の異常と対策 | 18 |

1. 安全にお使いいただくために

この取扱説明書では『危険』『警告』『注意』の警告事項について、次のように定義しています。

| | |
|-------------|---|
| ⚠ 危険 | <ul style="list-style-type: none"> 誤った取扱いをした時に、重傷または死亡につながる重大事故が発生する可能性があるとき |
| ⚠ 警告 | <ul style="list-style-type: none"> 誤った取扱いをした時に、重大な傷害を受ける事故が発生する可能性があるとき |
| ⚠ 注意 | <ul style="list-style-type: none"> 誤った取扱いをした時に、軽傷または中程度の傷害を受け、財物の損壊等につながる事故が発生する可能性があるとき |

本機のご使用前に、以下の危険、重要警告及び注意事項をよくお読みいただき、理解し必ず守って下さい。

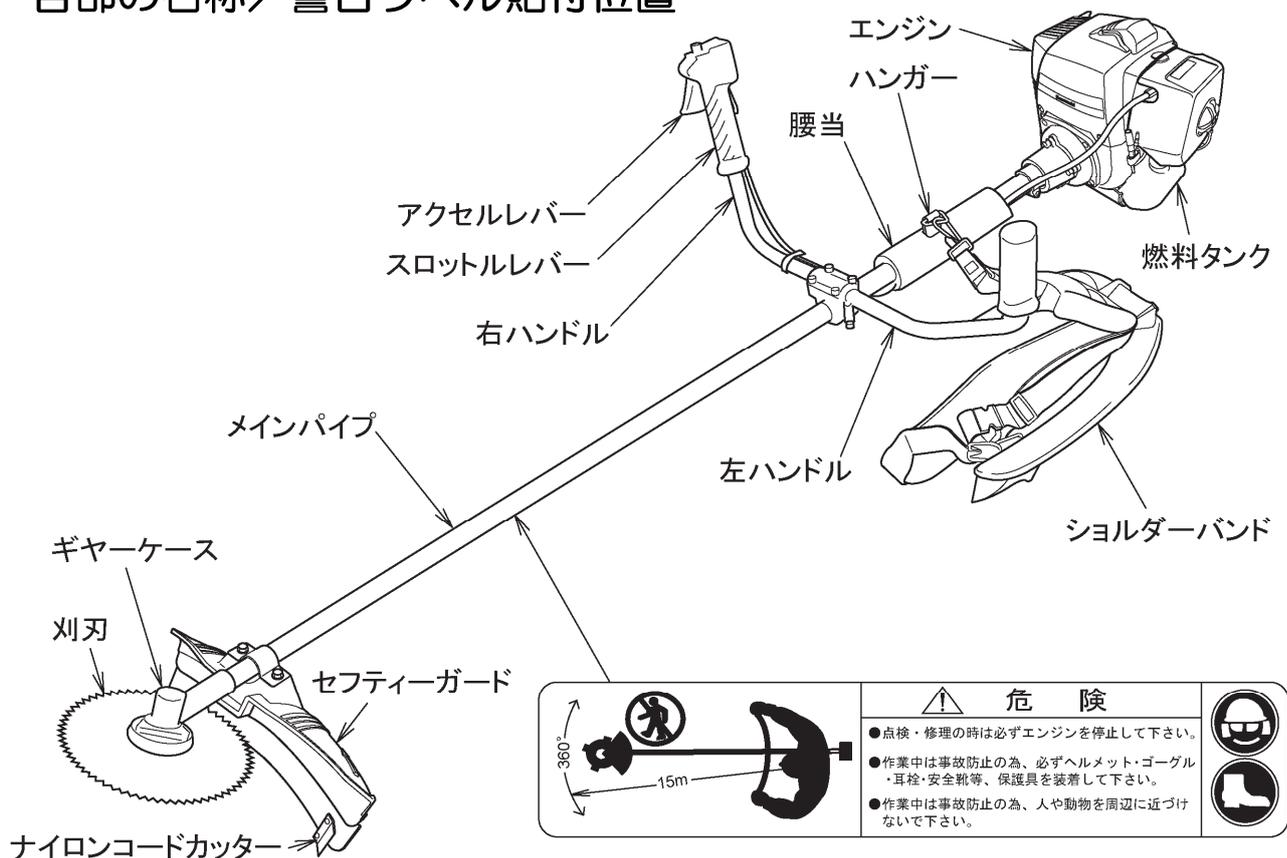
| | | |
|--|--|---|
| ⚠ 危険 | <p><u>人が死亡または重大な傷害を負う場合があります</u>ので、絶対にやめて下さい。</p> | |
| <ol style="list-style-type: none"> <u>エンジン始動中、刃部に手足等身体を近づけない</u>で下さい。 作業中は事故防止の為、作業員から<u>半径 15m以内を危険区域</u>とし、この中に作業員以外の人や動物が入らないよう<u>ロープで囲う、立て札を立てる</u>等の警告をして下さい。また、数台同時に作業する時もこの距離は守って下さい。 | | |
|  | <p>⚠ 危険</p> <ul style="list-style-type: none"> ●点検・修理の時は必ずエンジンを停止して下さい。 ●作業中は事故防止の為、必ずヘルメット・ゴーグル・耳栓・安全靴等、保護具を装着して下さい。 ●作業中は事故防止の為、人や動物を周辺に近づけないで下さい。 |  |
| <ol style="list-style-type: none"> 使用時以外（移動・保守・点検・保管時）は、必ず<u>エンジンスイッチをOFFにして点火プラグからプラグキャップを外して</u>下さい。 本機は始動時のリコイルスターターを引っ張る力が軽くなっていますので、不用意な操作で始動する恐れがあります。 <u>草刈り作業以外には使用しない</u>で下さい。 刈払機は雑草を刈るために設計・製造されています。枝打ち作業等には絶対使用しないで下さい。 <u>未成年の方による操作は、保護者の監督下</u>でない限りおやめ下さい。 本機の<u>操作方法をご存じない方</u>、または<u>理解できない方</u>には使用させないで下さい。 本機の<u>取扱いの指導を受けていない人や扱いに不慣れな人</u>には本機を<u>貸さない</u>で下さい。 | | |

⚠ 警告

人が重大なケガを負う場合がありますので、必ず守って下さい。
禁止事項は、絶対にやめて下さい。

1. 疲れている時、体調の悪い時は使用しないで下さい。
2. 刈払作業はゆとりをもって行って下さい。
3. 夜間及び天候の悪い時は使用しないで下さい。
4. 作業は足元に充分注意して、腕力で振り回したりせず、正しい姿勢でバランスを取って行って下さい。
5. 刈刃は右から左へ掃くように作業して下さい。
刈刃は左回転ですので右側から左側へ寄せるように刈り取ると効率よく作業が行えます。
6. 刈払作業以外に刈刃を回転させたり、水や土を切ったりしないで下さい。
7. セフティーガードは必ず取付けて作業して下さい。取外すことは危険ですので絶対外さないで下さい。
8. エンジンが回転すると逆方向に力がかかる場合（スラスト）があります。左右のハンドルを両手で確実に握って作業して下さい。
9. 枝打作業には、斧（おの）、鉈（なた）等を使用し刈払機は使用しないで下さい。
10. エンジンの回転速度をむやみに上げないで下さい。
11. 危険を感じた時は直ちにエンジンを停止し、必ず点火プラグからプラグキャップを外すか、本機を身体から離して下さい。
12. 空缶・針金・小石等を取り除いてから作業を行って下さい。
 - 刈刃が石・金属片等の硬いものに当たった時は、すぐにエンジンを停止し、必ず点火プラグからプラグキャップを外し、刈刃に異常がないかを確認して下さい。
 - 異常があった場合は作業を中止し、新しい刈刃に交換して下さい。
13. 刈刃部に草等が巻き付いて刈刃が停止した場合は、エンジンを停止し、必ず点火プラグからプラグキャップを外してから草等を取り除いて下さい。
14. 刈刃は必ずゴールドンスター指定の純正部品を使用して下さい。
15. 2人以上で作業する場合は呼び子（ホイッスル）等での合図方法をあらかじめ決めて、合図の徹底を図って下さい。また、人と人の間隔は 15m 以上十分に保って下さい。
16. 作業中に立ち話は絶対しないで下さい。話をする時はエンジンを停止し、必ず点火プラグからプラグキャップを外して下さい。
17. 電気ショックを受ける可能性がありますので、作業中は点火プラグキャップ部、高圧線に触れないで下さい。
18. 火傷防止のため、作業中はもとより、エンジン停止後もしばらくはエンジン本体、マフラー等に触れないで下さい。
19. 場所移動する時、本機を地面に降ろす時、作業を中断する時は、エンジンを停止し、必ず点火プラグからプラグキャップを外して刈刃に刈刃カバーを取付けてから行って下さい。
20. 使用時以外は、必ずエンジンスイッチを OFF にして点火プラグからプラグキャップを外し下さい。
21. 本機が故障した時は、お買い上げの販売店にご相談下さい。
22. 指定の部品、付属品を使用して下さい。ゴールドンスター指定の純正部品以外、使用しないで下さい。

2. 各部の名称／警告ラベル貼付位置



3. 仕様

| | |
|----------------------------------|--|
| 型 式 | CFB8A-TJ45E |
| エンジン型式 | 空冷2サイクルガソリンエンジン |
| 総排気量 (cm ³) | 45.4 |
| 最大出力 (kW(PS)/rpm) | 1.42 (1.93) /7500 |
| 燃料タンク容量 (L) | 0.9 |
| 使用燃料 | 混合ガソリン (50:1) |
| 気化器 | ダイヤフラム式 |
| 点火プラグ | NGK BPMR7A |
| クラッチの方式 | 遠心クラッチ |
| ギヤ比 | 14/19 |
| ハンドル形状 | 両手ハンドル |
| 全長×全幅×全高 (mm) | 約 1880×625×470 |
| 装備質量 (kg) | 約 8.8 |
| ハンドル振動3軸合成値* (m/s ²) | 4.6 |
| 付属品 | 本体取説、エンジン取説、刈刃、セフティーガード、刈刃カバー、インシュロック、ショルダーバンド、ゴーグル、六角レンチ(4B, 5B)、スパナ (8×10)、プラグレンチ (17×19) 兼ドライバー |

※ハンドル振動3軸合成値はISO22867規格に準拠して、標準部品（ブレードはチップソー φ255×42P）を組込んだ状態で測定しています。

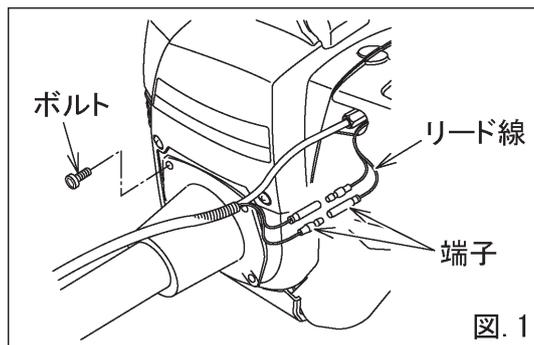
本仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

重要：このエンジンは危険防止の為、高速回転時に一定の回転数を超えると回転制御装置が作動し、エンジン回転数が上昇する事を制御します。

4. 組立て

1) 本体とエンジン組立て (図.1)

クラッチケースとエンジンを合わせてボルト4本で均一に確実に締付けて下さい。
この時に、スロットルレバーからでているリード線とエンジンから出ているリード線端子を確実に差し込んで下さい。
また、クラッチドラムを曲げないように注意して下さい。

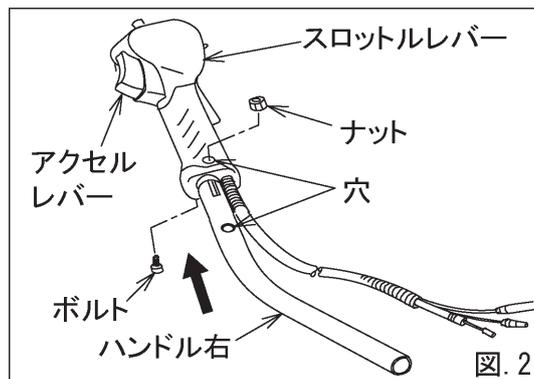


2) スロットルレバーの取付け (図.2)

⚠ 警告

• スロットルレバーは、緊急時のエンジン停止及び、エンジン回転数の調整等、安全な作業を行う為に重要な役割をしますので、確実にハンドル右に取付けて下さい。

- (1) スロットルレバーのボルト・ナットをはずして下さい。
- (2) ハンドル右をスロットルレバー下部の穴に差し込んで下さい。この時に、ハンドル右の穴とスロットルレバーの穴が合うまで確実に差し込んで下さい。
- (3) その穴にボルト・ナットを差込み、確実にボルトを締付け取付けて下さい。

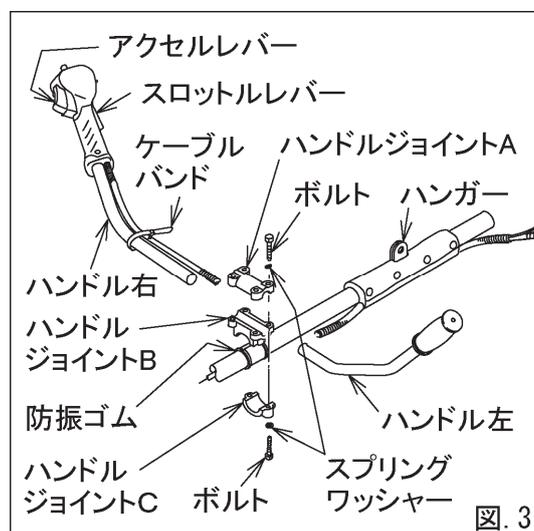


3) ハンドル取付け (図.3・4)

⚠ 警告

• ハンドルは安全快適な作業を行うために重要な役割をしますので、身体、作業状況に応じた位置、傾きに調整して下さい。

- (1) ハンドルジョイントB・Cを取付けている2本のボルトを緩め、身体に応じた位置を定め、緩めたボルトを確実に締付けて下さい。
- (2) ハンドルジョイントAを取付けている4本のボルトを緩め、ハンドルをハンドルジョイントA・Bの間に差し込みます。
* スロットルレバー (ハンドル右) は、エンジン側より見て、必ず右側に取付けて下さい。
- (3) ハンドルの傾きを調整し、緩めた4本のボルトを確実に締付けて下さい。
- (4) ハンドルジョイントA・Bに両手ハンドルを差込む場合は、各端部がハンドルジョイントの中央で合うようにして下さい。



- (5) アクセルレバーの遊びは、スロットルケーブルのロックナットで約2mmになるように調整しナットA・Bで確実に固定して下さい。
(図.4)

* 工場出荷時には、調整はしてありますがスロットルケーブルの取り回し状態、ハンドルの取付位置等により調整がズれる場合があります。調整がズれている場合は調整して下さい。

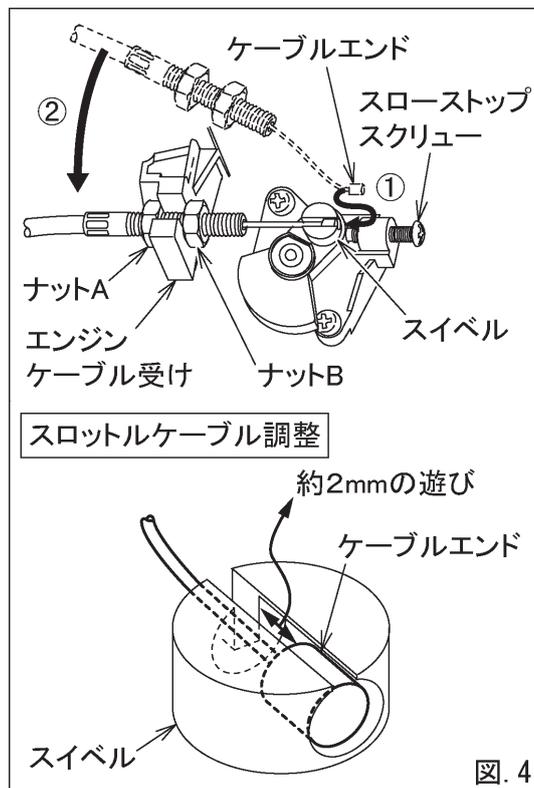


図. 4

4) ハンガーとショルダーバンドの調整 (図.5・6)

⚠ 危険

- 作業前に、緊急離脱ベルトを上を引き上げた時にフックが外れることを確認して下さい。
- フックが外れないときは絶対に使用しないで下さい
- フックが外れないと緊急時の危険回避が出来ません。

- (1) ハンガーをショルダーバンドで吊った時に刈刃が地面から約5~15cmの高さで地面と平行になるように調整します。
- (2) ショルダーバンドはフックが右腰に、肩当が両肩にくるようにかけて下さい。身体の前側でバックルを差し込んで下さい。(図.5)

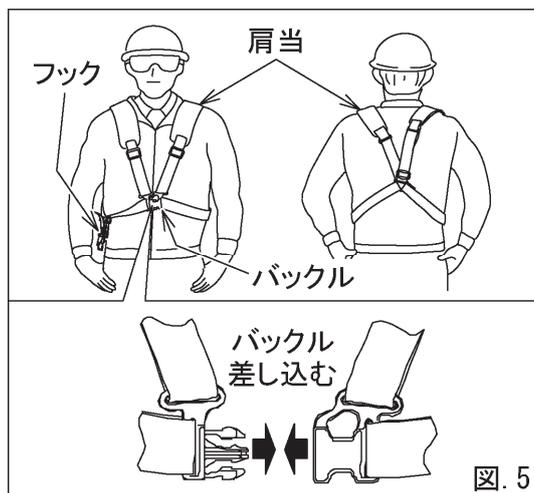


図. 5

- (3) ショルダーバンドのフックをハンガーに掛け、身体に応じてバンドの長さを調整して下さい。
(図.6)

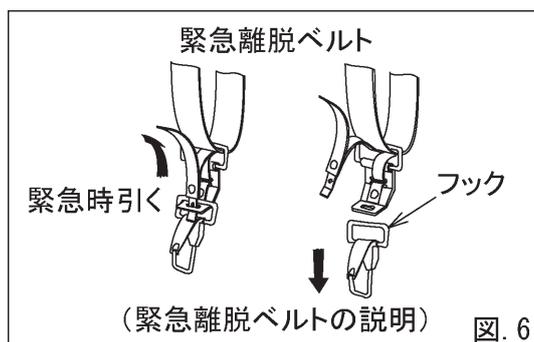


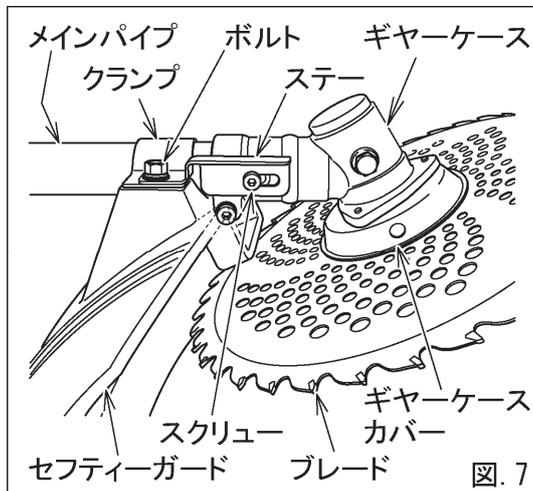
図. 6

5) セフティーガードの組付け (図.7~10)

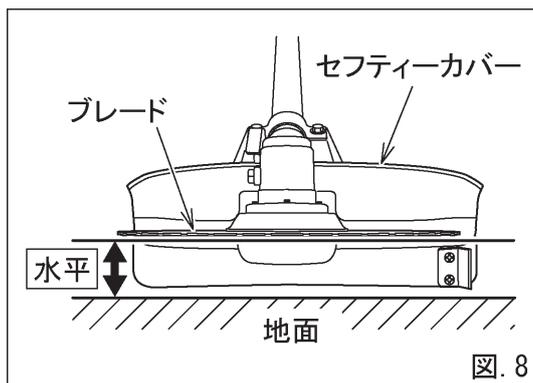
⚠ 危険

- 飛散物から身体を保護する部品です、**必ず定位置に取付けてから作業**してください。
- 破損した場合は、必ず新品と交換してから作業して下さい。
- 組み付け作業は**必ず手袋を着用**して行なってください。

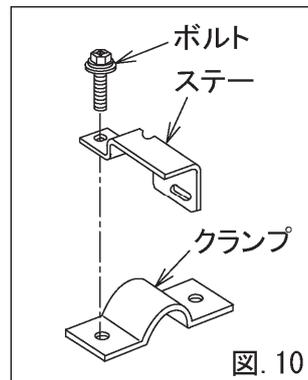
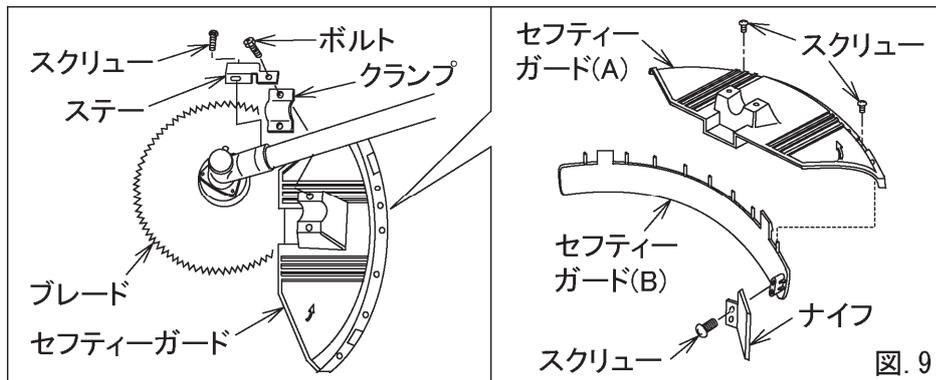
- (1) セフティーガード (A) と (B) の穴位置を合わせ、セフティーガード (B) を差込み、スクリー2本で確実に締め付けてください。
- (2) ナylonコードカッターを使用する場合は、ナイフをセフティーガード (B) にスクリー2本で確実に締め付けてください。
- (3) ステアが軽く動くように、ステアが取り付けられているギヤケースのスクリーを緩めます。
* スクリューをギヤケースより抜く必要はありません。



- (4) セフティーガードをギヤケース端に接するようにし、クランプ、ステアの順にメインパイプを挟み込み、ボルトで確実に取付けて下さい。
* 水平な地面の上に置き、ブレードが地面と水平であることを確認して下さい。



- (5) ステアを固定する為にスクリーを確実に締め付けて下さい。



6) 刈刃の取付け・取外し (図.11)

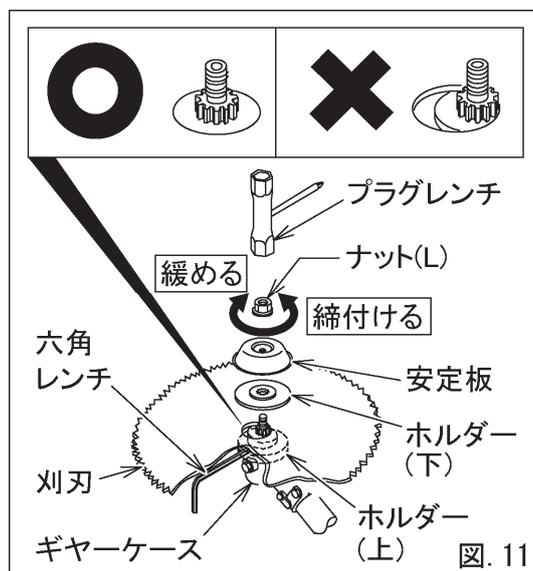
| | |
|---|---|
|  危険 | <ul style="list-style-type: none"> ● ゴールデンスター純正刈刃を正しい位置に確実に取付け、必ず純正プラグレンチ (17×19) を使用してナット (L) を確実に締付けて下さい。絶対に他の工具を用いて締めないで下さい。 ※締付けトルク 35~39N・m ● 破損した刈刃 (チップの欠け、ヒビ等) は使用しないで下さい。 ● <u>上記を怠った場合、作業中に異常振動が発生して、ナット (L) が破損もしくは緩み、ブレードが外れるなど、本機・エンジンが破損する重大事故が発生する可能性があります。</u> |
|---|---|

| | |
|---|--|
|  警告 | <ul style="list-style-type: none"> ● 刈刃の取付け、取外し時は必ずケガ防止の為に、手袋を着用し下記点を順守して下さい。 <ol style="list-style-type: none"> ① <u>刈刃が完全に停止してから行って下さい。</u> ② <u>エンジンスイッチを『OFF』にし、エンジンが完全に冷えたのちプラグキャップを点火プラグから外してから行って下さい。</u> |
|---|--|

- (1) ギヤークেসカバー・ホルダー (上) の側面穴とギヤークースの切取部を合せ、そこに回り止めとなるように六角レンチを差込み、ホルダー (上) を確実に固定します。
- (2) プラグレンチでナット (L) [左ネジ] を緩め (時計方向に回す)、ホルダー (下) を外します。
- (3) 刈刃のセンター穴をホルダー (上) の凸部に確実に合せ、ホルダー (下) のスプライン穴を主軸のスプライン部に差込み、次に安定板を主軸のネジ部に差込み、ナット (L) を必ずプラグレンチで確実に締付け固定します。
(図.11)

(反時計方向が締付方向です。)

- (4) 六角レンチを抜いて下さい。
- (5) 作業前にブレードを軽く手で回して振れていないか、正しく取付けられているか確認して下さい。



5. 燃料給油

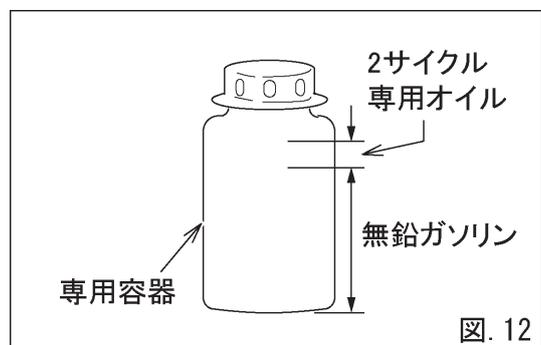
| | |
|-------------|--|
| ⚠ 警告 | <ul style="list-style-type: none">点検は、安定した場所で必ずエンジンスイッチを OFF 側にし、エンジンを停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより外して行って下さい。 |
| ⚠ 注意 | <ul style="list-style-type: none">2サイクルエンジンですので、燃料は自動車用無鉛ガソリン 50 に対し、2サイクル専用オイル 1 (FC 級) の割合で混合した燃料を使用して下さい。 |

1) 燃料

- 燃料は2サイクル専用オイル混合ガソリンを必ず使用して下さい。
- 混合比を間違えると、エンジン焼き付きの恐れがあります。

2) 燃料混合 (図.12)

- きれいなキャップ付容器に2サイクル専用オイル (FC 級) 20ml に対して、自動車用無鉛ガソリン 1 l を入れて、よく振って混ぜ合わせて下さい。
- 容器が汚れていたり、混合比が不相当ですとエンジン不調の原因となります。
- 購入約 2~3 ヶ月経過後のガソリンもエンジン不調の原因となりますので使用しないで下さい。



3) 燃料給油

| |
|--|
| ⚠ 警告 |
| <ol style="list-style-type: none">タバコ等周囲に火気がないことを確認のうえ行って下さい。必ずエンジンを停止し、完全に冷えたことを確かめてから行って下さい。こぼさないように行って下さい。万一、こぼれた場合は完全に拭取り、乾かしてからエンジンを始動して下さい。混合ガソリンは購入後約 2~3 ヶ月以上経過したものや異物を混合されているようなものはご使用にならないで下さい。エンジン不調の原因となります。作業に消費する量だけ燃料混合して下さい。給油後は、燃料タンクのキャップを確実に締付けて下さい。粗悪ガソリンをご使用の場合における故障、クレームにつきましては保証対象外となりますのでご注意下さい。 |

(1) 燃料キャップを外し、注油口の口元より少なめに補給します。

(2) 燃料補給時はこぼさないように行って下さい。万が一こぼれた場合は完全に拭取って下さい。補給後、燃料キャップを確実に締付けて下さい。

6. エンジンの始動・停止

1) エンジンの始動 (図.13~17)

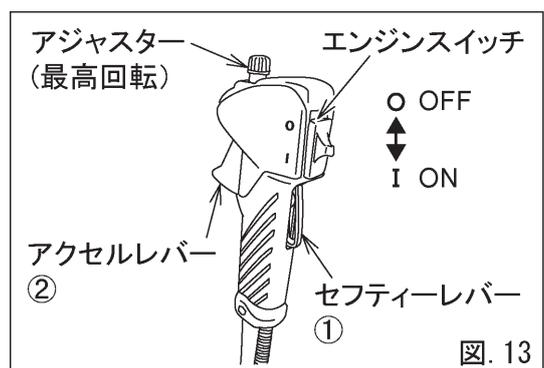
* エンジン始動要領の詳細については、エンジン取扱説明書をお読み下さい。

| | |
|---|---|
|  警告 | <ul style="list-style-type: none"> • 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないで下さい。一酸化炭素によるガス中毒になる恐れがあります。 |
|---|---|

|  警告 | |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. エンジンを始動する前には、必ずエンジン取扱説明書をよく読まれ、よくご理解の上、正しく安全にご使用下さい。 2. エンジンを始動する前には、本機各部のネジ類のゆるみや部品の脱落がないか、グリース、燃料が入っているか、燃料漏れがないかを点検し異常がないことを確認してから使用して下さい。 3. 刈刃は確実に取付けられているか、刈刃に損傷はないかを点検し、異常がないことを確認してからご使用して下さい。 4. エンジンを始動する時は、周囲に充分注意し、刈刃は地面に触れない様にして下さい。 5. 屋内では始動しないで下さい。 6. 始動は燃料補給場所とは異なる火気のない所で行って下さい。 7. 排気を吸わないよう注意して下さい。 8. エンジン回転を上げる場合は急激に上げず徐々に回転を上げて下さい。回転速度をむやみに上げないで下さい。 9. 異常音、異常振動等異常を感じた時は、すぐにエンジンを停止し、点検・修理を行ってから使用して下さい。 10. アイドリング時に刈刃の共回りやエンストがないようにスローストップスクリューを調節して下さい。(P6の図.4 及びエンジン取扱説明書を参照) | |

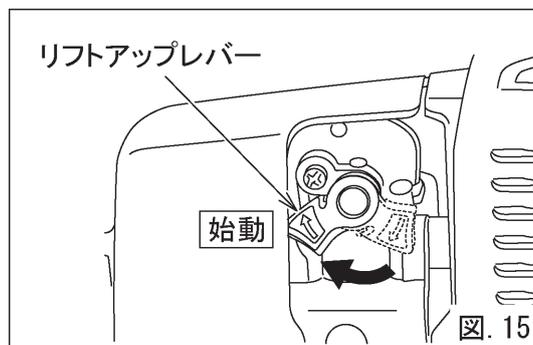
- (1) 本機を始動される時はブレードが地面に接地しないように安定した場所で行って下さい。
- (2) エンジンスイッチを“ON” (運転) の位置にします。
- (3) アクセルレバーを“始動”位置にします。
* アジャスター (図.13) の役目は、アクセルレバーを握った時の移動量を規制して、エンジン最高回転数を調整するものです。
- (4) プライミング操作を行います。

キャブレタのプライミングポンプを指でゆっくり数回押してオーバーフローチューブ (透明) から燃料が流れ出すのが確認出来たらプライミングポンプを押すことを止めて下さい。



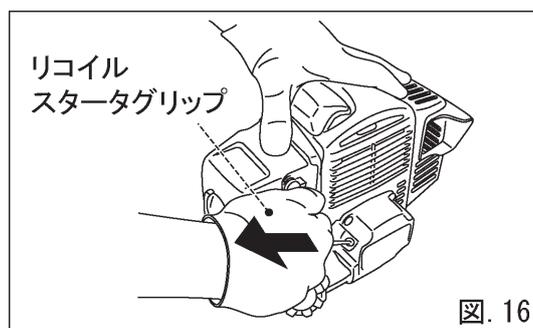
(5) キャブレタのリフトアップレバーを指で
“カチッ”と感触があるまで時計廻り方向に
廻して、“始動”の位置にします。

- リフトアップレバーが廻せない場合はアクセルレバーが一杯に戻っているかどうか確認して下さい。
- 酷暑時またはエンジンが暖まっている時はリフトアップレバーの操作は不要です。



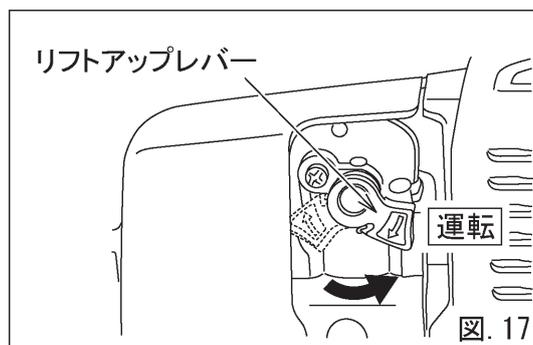
(6) まわりに人や障害物がない事を確認してから、リコイルスタータグリップを素早く引張ります。(リコイルスタータは引き力を低くした構造なので軽い力で引けます。)

- * ロープは全部引ききらないで下さい。
またロープは静かに戻して下さい。



(7) エンジンが始動したら、セフティーレバーを先に押し込んでから、アクセルレバーを少し握ってリフトアップレバーを“運転”の位置にします。その後アクセルレバーを“始動”（一杯に戻した）位置に戻して下さい。

- リフトアップレバーはアクセルレバーをわずかに握る事で“始動”から“運転”の位置へ自動的に戻ります。



(8) エンジンが始動したらアクセルレバーを“始動”位置（アイドリング状態）で約3分間暖機運転を行ってからご使用下さい。

- * エンジンの始動要領の詳細については、エンジン取扱説明書をお読み下さい。

2) エンジンの停止

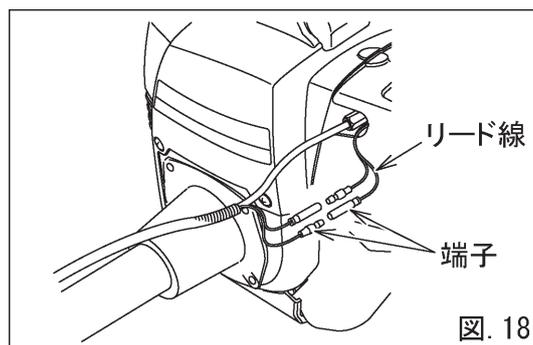
⚠ 警告

- 作業前に、エンジンスイッチでエンジンが停止することを必ず確認してから作業を開始して下さい。
- エンジンが停止しない場合には使用しないで下さい。
- エンジンが停止しない場合は緊急時の危険回避が出来ません。

(1) アクセルレバーを“始動”位置（アイドリング状態）にして約1分間運転して下さい。

(2) エンジンスイッチを“OFF”（停止）の位置に戻して下さい。

- * エンジン回転が停止しない場合には、エンジンとスロットルケーブルのリード線端子に抜けがないか確認して抜けていれば確実に差し込んで下さい。(図.18)



7. 作業

1) 服装

⚠ 警告

1. 作業の行い易い服装で作業して下さい。
2. 長袖、長ズボン等の作業服を着用して下さい。但し、袖、裾のだぶついた物は着用しないで下さい。
3. 作業・点検・調整時は手袋を着用して下さい。
4. ヘルメット等、JIS等の規格に合格した安全帽を着用して下さい。
5. 目の防護のため、防護メガネを着けて下さい。
6. 耳を保護するため、適正な防護具（耳栓等）を使用して下さい。
7. 滑りにくい安全靴を履いて下さい。

2) 刈払作業（図.19・20）

重要：このエンジンは危険防止の為、高速回転時に一定の回転数を超えると回転制御装置が作動し、エンジン回転数が上昇する事を制御します。
作動時に不快な振動が発生する場合がありますが故障ではありません。

刈払作業を行う前に必ず“安全のお使いいただくために”の項目ならび、各調整項目をよく理解の上作業に取り掛かって下さい。

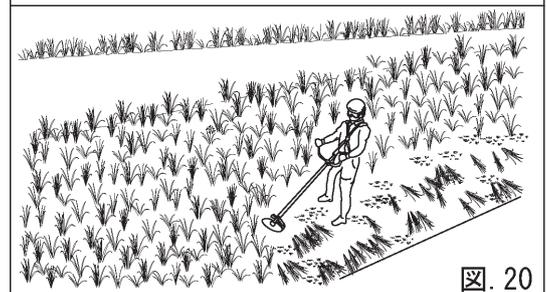
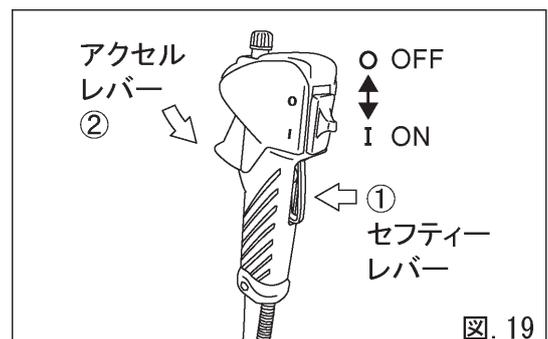
- (1) エンジンを始動します。
- (2) 肩掛けバンドのフックが身体の右側に来るように、肩掛けバンドを両肩にかけます。
- (3) 肩掛けバンドのフックを本機のハンガーに取付けます。
- (4) 本機のバランス（刈刃の高さ）を確認します。
- (5) 両手でハンドル（スロットルレバー・グリップ）をしっかりと握ります。
この時には、アクセルレバーを握らないで下さい。

- (6) 先ずセフティーレバーを押し込み、次にアクセルレバーに指を掛けて引き、エンジン回転を上げます。（図.19）

- (7) 作業回転速度になれば刈払作業を開始します。
* 作業回転速度は雑草等の状態により変えて下さい。

- (8) 傾斜地を刈る場合は、等高線（横）方向に行い、進行方向左側が低い方になるように、右から左に掃くように刈り取って下さい。
（図.20）

- (9) 作業を中止・終了した時は、必ずエンジン回転を停止させます。



3) 作業時間

⚠ 警告

1. 一日の作業時間は2時間以内にしてください。
2. 疲労は事故の最大原因です。30分程度作業、10分~20分休憩してください。国有林での作業は、作業者の健康管理のため下記のようにしていますので参考にして下さい。

| 作業は連続3日を限度として | |
|---------------|--------|
| 1回の連続作業時間 | 30分以内 |
| 1日の作業時間 | 2時間以内 |
| 1週間の作業時間 | 5日以内 |
| 1月の作業時間 | 40時間以内 |

8. 保守・点検

本機をいつも良い状態で使用していただくために、定期的に必ず保守・点検を行って下さい。

⚠ 警告

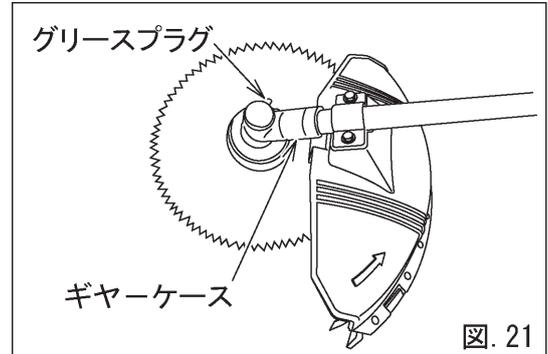
1. 修理・調整するときは、必ずエンジンスイッチをOFF側にしエンジンを停止して、必ず点火プラグからプラグキャップを外して下さい。
2. 本機全体のチリやホコリをよく取り除いて下さい。
3. 点火プラグは運転時間約 10~15時間毎に点検、清掃を行なって下さい。
4. エアークリーナは運転時間約 20時間毎に点検、清掃を行なって下さい。
5. 各部の締付けネジの緩みがないか、刈刃に損傷がないかを点検し、ネジの緩みがあれば締付け、刈刃に損傷（欠け、割れ、曲り等）があった場合はゴールドenster指定の純正の刈刃と交換して下さい。
6. 燃料漏れや、ギヤケースにグリース漏れがないかを点検し、漏れがある場合は修理して下さい。
7. 部品を交換する場合は、必ずゴールドenster指定の純正部品をお使い下さい。
8. 本機が故障した場合はお買上げの販売店にご相談下さい。
9. 上記『お手入』を怠った場合における故障、クレームにつきましては保証対象外となりますのでご注意下さい。また、上記以外の故障、クレームにつきましても保証対象外となる場合がございますのでご注意下さい。

1) グリースの給油 (図.21)

⚠ 注意

- ギヤケース内のグリース残量は作業前に必ず確認して下さい。グリース残量が少ないとギヤケース内の部品が摩耗破損する恐れがあります。

- 最初の 20 時間使用後及び 100 時間使用毎にギヤケースのグリースを給油して下さい。
- 給油方法はギヤケースのグリースプラグを取外し、5~10mL 程度注入して下さい。
- グリースは、市販品の極圧添加剤入りリチウム系グリースの NO.1 を指定して下さい。
- グリース注入後は必ずグリースプラグをしっかりと締付けて下さい。



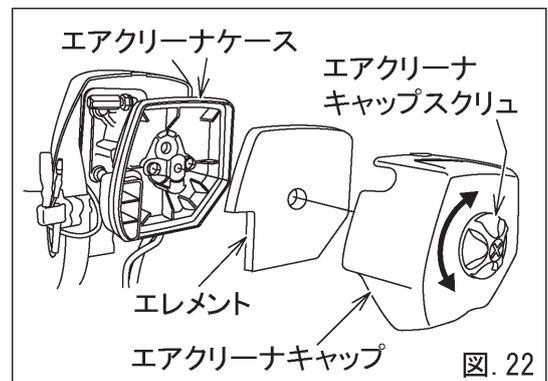
2) エアクリーナの点検・清掃 (図.22)

⚠ 注意

- 埃の多い所で使用した場合の清掃は、1日1回または10時間毎に行ってください。
- エアクリーナあるいは部品を外したままでエンジンを運転するとエンジン内部が早く磨耗したり破損したりします。

エアクリーナが目詰まりをおこすと、エンジン出力、回転の不足や燃料消費が多くなりますので、定期的に点検・清掃をするようにして下さい。

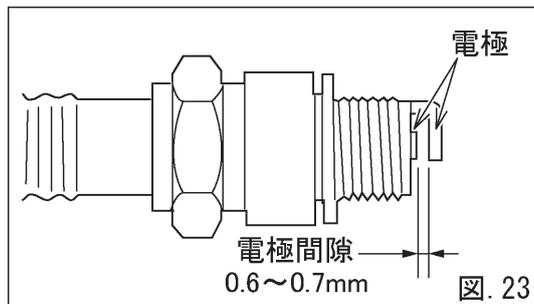
- (1) エアクリーナキャップスクリュをゆるめてエアクリーナキャップを取り外します。
- (2) エアクリーナケースから取り外したエレメントは洗浄剤と水で洗ってから、十分に乾燥させて下さい。
- (3) エアクリーナケースにエレメントそしてエアクリーナキャップの順に確実に再組付けして下さい。



3) 点火プラグの清掃 (図.23)

| | |
|-------------|---|
| <p>⚠ 警告</p> | <ul style="list-style-type: none">● 電極が汚れたり、電極の隙間が不適當ですと、完全な火花が飛ばなくなり、エンジン回転が不均一になり、エンジン不調の原因となります。● 点火プラグの清掃・調整はエンジンが冷えてから行って下さい。● 点火プラグの取り付けは、ネジ山をつぶす恐れがありますので、はじめは指で軽くねじ込み (5~6山)、次ぎにプラグレンチで確実に締め付けて下さい。 |
|-------------|---|

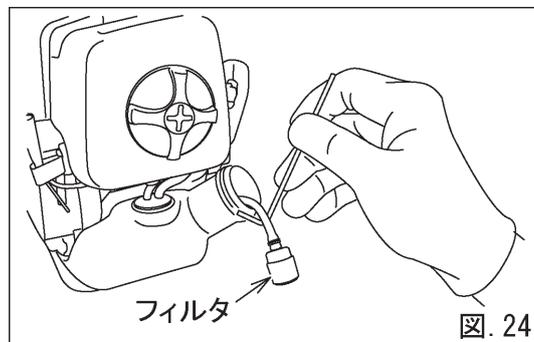
- 点火プラグキャップを点火プラグより外し、プラグレンチでエンジンより取り外します。
- 点火プラグに付着したカーボン等をプラグクリーナ、もしくは、ワイヤーブラシ等で落として下さい。
- 電極隙間を0.6~0.7mmに調整します。
NGK: BPMR7A



4) 燃料フィルターの清掃 (図.24)

| | |
|-------------|--|
| <p>⚠ 警告</p> | <ul style="list-style-type: none">● 周囲は火気厳禁にして下さい。 |
|-------------|--|

- (1) 燃料フィルタを燃料タンクから針金等で引き出します。
- (2) 高引火点の溶剤 (パーツクリーナー) 等で燃料フィルタを洗浄します。
- (3) 燃料フィルタをよく乾かして燃料タンクに戻して下さい。



5) 燃料パイプの交換

| | |
|-------------|---|
| <p>⚠ 警告</p> | <ul style="list-style-type: none">● 使用頻度に関わらず、燃料パイプは1年で交換して下さい。燃料漏れは引火する危険があります。尚、点検時漏れ等のあるものは即交換して下さい。 |
|-------------|---|

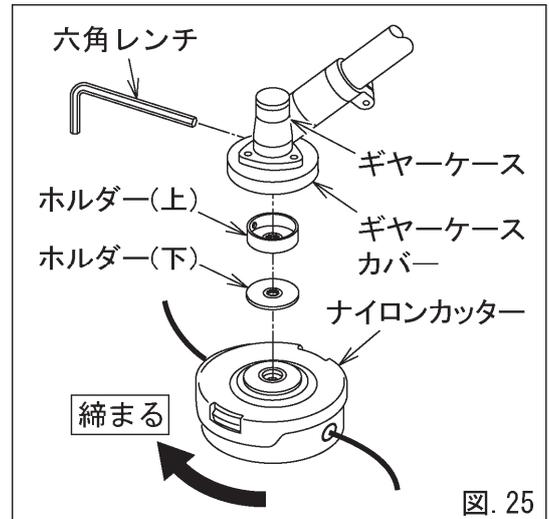
9. ナイロンコードカッターのご使用上の注意

| | |
|---|---|
|  警告 | <ul style="list-style-type: none"> 作業に適した服装を着用し、飛散物でケガをする可能性がありますので、必ず身体を保護する防具を装着してください。 (7項の1) 服装を参照) セフティーガードは必ず取付けて作業をしてください。 |
|---|---|

1) ナイロンカッターの取付け、取外し (図.25)

| | |
|---|---|
|  注意 | <ul style="list-style-type: none"> 使用できるナイロンカッターの取付ネジ仕様は、M10×1.25左ネジです。異なる寸法のネジ仕様を無理やり取付けて使用しないでください。作業中に外れてケガをする恐れがあります。 詳細は使用するナイロンカッターの取扱説明書を参照して下さい。 |
|---|---|

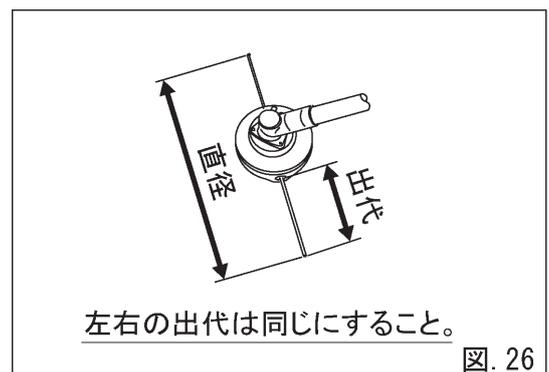
- (1) 刈刃を 4 項の 6) 刈刃の取付け、取外しを参考に刈刃を取外します。(図.11)
- (2) ホルダー(上)、ホルダー(下)のスプライン穴をギヤケース主軸のスプライン部に組込みます。
- (3) ナイロンカッターのメネジ部(M10×1.25左)をギヤケース主軸に確実にネジ込みます。
* 締付方向は左方向です。
- (4) ナイロンカッターが確実に取付けられたら、必ず六角レンチを抜いて下さい。



2) ナイロンコード長さの設定 (図.26)

| | |
|---|---|
|  注意 | <ul style="list-style-type: none"> ナイロンコードの左右の出代は必ず同じにして使用して下さい。異常振動が発生して本機エンジンに負荷が掛り、故障の原因となります。 ナイロンコードの直径設定以上でご使用された場合、次のトラブルの原因となりますので、必ず守って下さい。 <ol style="list-style-type: none"> ① 回転数の低下による雑草の巻付き等、作業効率の著しい低下。 ② クラッチ・シャフト等の各部の異常摩耗やエンジンの故障及び、焼付き。 |
|---|---|

- (1) 雑草の種類・状態、エンジンの回転数等により刈取れる雑草の条件が変わってきます。状況に応じてナイロンコードの長さを調節して最適な状態で使用して下さい。
* ナイロンコードは、セフティーガードに取付けたコードカッターで一定の長さ(直径約 390mm)で切断されるようになっています。
- (2) 左・右の出代は必ず同じにして下さい。



10. 保 管

| | |
|---|---|
|  警告 | <ul style="list-style-type: none">• ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。• ガソリンを抜くときは、換気のよい場所で行い、火気を絶対に近づけないで下さい。• ガソリンはこぼさないように抜いて下さい。• 燃料・油脂類の廃液は法令で適切な処理を行なうことが義務づけられています。法令に従い適正に処理して下さい。不明な点は、お買い上げになったお店にご相談のうえ処理して下さい。 |
|---|---|

燃料タンク、キャブレター内に燃料を残したまま長期間放置すると、始動困難や出力低下等の故障の原因となります。長期保管の際は下記要領で残っている燃料を全部抜取って下さい。

- (1) 下記の手順で燃料を抜きます。
 - ① 燃料タンクの燃料注入口より抜きます。
 - ② 気化器内の燃料はプライミングポンプを数回押し抜いて下さい。
 - ③ 再度燃料タンク内の燃料を抜取って下さい。
- (2) 各部を十分に清掃し金属部には発錆防止のためオイルを薄く塗って下さい。
- (3) 刈刃部は保護具（刈刃カバー）で完全に覆って下さい。
- (4) 交換の必要な部品は交換し、各部のボルト・ナットを点検し、緩んでいましたら確実に締付けて下さい。
- (5) 点火プラグを外し、エンジンオイルを約 0.5ml 注入し、リコイルスタータの始動ノブを静かに2～3回引き、点火プラグを締付けて下さい。
- (6) リコイルスターターをゆるやかに引き、重くなったところで止めて下さい。
- (7) エアクリーナを清掃して下さい。
- (8) カバーをかけ、湿気やホコリの少ない風通しの良い場所に保管して下さい。
- (9) 子どもの手がとどかない鍵のかかる場所に保管して下さい。
- (10) 上記『お手入』を怠った場合における故障、クレームにつきましては保証対象外となりますのでご注意下さい。また、上記以外の故障、クレームにつきましても保証対象外となる場合がございますのでご注意下さい。

11. 本機の異常と対策

本機に異常があれば、修理に出される前に下表より原因を探り適切な対策を施して下さい。その上でなお異常がある時は、むやみに分解しないでただちに使用を中止し、お買い上げ頂いた販売店またはサービス店へお申し付け下さい。

| 状態 | 原因 | 対策 |
|-------------|--|---|
| エンジンが始動しない。 | ① 燃料が無い。 | 燃料を補給する。 |
| | ② エンジンスイッチが“OFF”。 | エンジンスイッチを“ON”にする。 (P.10の図.13参照) |
| | ③ リフトアップレバーが始動位置にセットされていない。 | 始動位置にセットしてリコイルを引く。(P.11の図.15参照) |
| | ④ キャブレターに燃料が来ていない。 | プライミング操作を数回行う。 (P.10の図.14参照) |
| | ⑤ 燃料フィルターの目詰まり。 | 燃料フィルターの清掃。 *エンジンの取扱説明書参照。 |
| | ⑥ 点火プラグキャップが外れている。 | 点火プラグキャップを確実に取付ける。 *エンジンの取扱説明書参照。 |
| エンジンが加速しない。 | ① スロットルケーブルの遊びが大きい。 | 遊びを調整する。 (P.6の図.4参照) |
| | ② エアーのエレメントが目詰まりしている。 | エアーエレメントを清掃する。 (P.14の図.22参照) |
| 本機が異常振動する。 | ① 刈刃が欠け、割れ、曲っている。 | 新品の刈刃と組みかえる。 |
| | ② 刈刃取付用ナット(L)が緩んでいる。 | ナット(L)確実に締付ける。 (P.8参照) |
| | ③ 刈刃センター穴とホルダー(上)の凸部が合わずにナット(L)を締めている。 | ブレードを正規位置に組み込む。 (P.8の図.11参照) |
| | ④ ナイロンコードカッターの長さが左・右で異なる。 | 左・右の長さを合わせる。 (P.16の図.26参照) |
| | ⑤ エンジンが高速回転して、回転制御装置が働いている。 | エンジン回転数を下げる。 |
| エンジンが停止しない。 | ① エンジンスイッチが“ON”の位置。 | エンジンスイッチを確実に“OFF”の位置にする。 (P.10の図.13参照) |
| | ② リード線端子が外れている。 | リード線端子を確実に差し込む。 (P.11の図.18参照) |



製造番号

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明な点があった場合には、ご遠慮なくお買い上げの販売店にお問い合わせください。

本機を末長くご愛用いただきますようよろしくお願いいたします。

本 社

兵庫県小野市本町10番地 〒675-1372
TEL (0794) 62-2391代 FAX (0794) 63-5211

東京支店

東京都中央区日本橋小伝馬町8番3号 〒103-0001
TEL (03) 3664-8811代 FAX (03) 3664-8860

九州支店

佐賀県鳥栖市養父町473番地2 〒841-0005
TEL (0942) 85-9277 FAX (0942) 84-2700

新潟・三条出張所

新潟県三条市神明町2番1号 〒955-0063
TEL (0256) 32-9971 FAX (0256) 32-9671

KINBOSHI

Corporation

園芸機器総合メーカー

キンボシ 株式会社

2047Ci-1611